



政府統計

報道関係者 各位

平成 25 年 3 月 21 日

【照会先】

大臣官房統計情報部人口動態・保健社会統計課世帯統計室	
縦断調査管理官	越路 幹男
コーホート分析専門官	福田 節也 (内線 7550)
成年者縦断統計第一係長	小池 康浩 (内線 7592)
(代表電話)	03(5253)1111
(直通電話)	03(3595)2322

21 世紀出生児縦断調査及び 21 世紀成年者縦断調査 特別報告書(10 年分のデータより)について

厚生労働省では、「21 世紀出生児縦断調査 (平成 13 年出生児)」及び「21 世紀成年者縦断調査 (国民の生活に関する継続調査)」の 10 年分のデータを用いて、同一個人を追跡する縦断調査の特性を活かした分析を行った結果を取りまとめましたので公表します。

【調査結果のポイント】

1 結婚及び出生の状況

- ・「無職」や「パート・アルバイト」「派遣社員」「契約社員・嘱託」の男女は、「正規雇用」の男女に比べて結婚を「絶対したい」と思う者が少ない(3頁 図2)
- ・男女とも、収入が高いほど結婚しやすい、特に男性の 30 歳以上で顕著(4頁 図4)
- ・妻の就業形態が、「パート・アルバイト」、「派遣社員・契約社員・嘱託」では、「正規雇用」に比べ、第1子が生まれにくい(5頁 図5)
- ・第1子の出生後に、夫の育児参加が多いほど第2子が生まれやすい傾向(6頁 図7)

2 希望子ども数の実現状況

- ・同じ配偶者と結婚を継続している女性が、第1回調査時の希望子ども数を実現する割合は約7割(7頁 図9)
- ・希望子ども数が2人あるいは3人以上の場合、あと1人が実現されない主な要因は以下のとおり(7、8頁 図10)

共通するものとして、

夫の希望子ども数が妻より少ない

さらに、

希望子ども数2人の場合には、妻の第1子出産年齢が高い、平日日中の保育者が妻のみ

希望子ども数3人以上の場合には、親と同居していない、妻の勤務先に育児休業制度があるが利用しにくい又はどちらともいえない、育児休業制度がない

詳細は、別添概況をご覧ください。